

大谷中・高等学校グランドデザインについて

1. 理念・使命

大谷大学の開学に先立ち、本校初代校長に就任された清沢満之先生は、開校直後に宗門子弟を中心とした生徒会を組織された。「樹心会」と命名されたその会は、毎月2回の会合を持ち、そこでは生徒の一人が話をし、その後で教員が話をするのが習わしであった。この「樹心」の二字は、親鸞聖人の主著『教行信証』後序の「慶ばしいかな、心を弘誓の仏地に樹て、念を難思の法海に流す」の一文より採られたものである。

「心を弘誓の仏地に樹て」とは、われわれ一人ひとりが大いなる仏の願いによってこの世に生を享け、生かされているという、その基盤の上に立って、生まれた意義と生きる喜びを味わいつつ、自他のために精一杯生き切る人となるという、独立者の宣言である。

近年本校では、この「樹心」の願いを“To Be Human (人となる)”というスローガンにして、教育を展開している。単に将来のよりよい進路や経済的な幸福を目指すのではなく、与えられた命を「人間成就」のために生かし切ろうというのである。人間の究極的な完成は、凡人にとっては至難の業ではあるが、そのために灯されたいのちの炎を、自らの為にはそれを生かし切り、他者に対してはその灯火を点じて、共によき世の人となることこそが、本校の建学の理念であり、また社会に対する使命なのである。

2. 10年後のビジョン・目的

以上のような理念・使命のもとに、当面の本校の教育目的を「学校スローガン“To Be Human (人となる)”を基盤とする仏教教育を展開する」と設定し、以下に述べる目標（行動計画）を策定して、教職員が一体となり、また同一法人設置校との十分な連携の下に、その実現に向けた取り組みを進める。

私立中学・高校の評価は、難関大学進学率や文化活動を中心とした社会貢献が、その指標とされている。本校もその傾向に追随するものではあるが、我々の教育目標はあくまで「人となる」ことであり、社会から受ける評価はそのプロセスに位置する。したがって、「人となる」という究極の目的に合致しない社会的評価は、敬してこれを遠ざけることになる。「仏教教育」はかかる視点を明示し、我々を本来あるべき正しい方向に導くのである。

今後10年の中・長期計画において、我々は「教育」「生徒募集・進路指導」「学校経営」の三分野において、それぞれの目標設定を行い、達成への道どりを明らかにした。私学の教育の基礎を支えるのは、何をおいても学校経営の手法であり、それは中等教育に赴く生徒の「入口」と「出口」をきちんと保証することによってもたらされる。

いままでややもすると敬遠されがちであった「学校経営」的な観点を、今回の中・長期計画の中心に置き、明確な目標設定とPDCAサイクルによる毎年の見直しを通して、「人となる」という所期の目的の一端を獲得したい。

2012年1月1日

大谷中学・高等学校
学校長 太田 清史

大谷中学校
大谷高等学校

中・長期計画

2012年4月1日～2022年3月31日

真宗大谷学園	設立の願い：浄土真宗の精神を世界に開くことを使命とする
存立の精神	教育の理念：人間をエゴイズムから解放する教育と研究
三つの指標	教育の方針：真の独立者として相互敬愛の心を有する人物を育成する

学校スローガン “To Be Human (人となる)” を基盤とする仏教教育を展開する

教育に関する方針	生徒募集・進路指導に関する方針	学校経営に関する方針	
ゆきとどいた教育で、生徒の人間としての成長と学力の伸長を目指す。	生徒募集定員100%確保の達成と大谷大学との更なる連携の強化、国公立大学および難関私立大学進学者数の増加を目指す。	左記に基づく経営体質強化のため、校務部門ごとの達成目標を設定し、組織的かつ責任のある対応を行う。それによって、学校財務の独立採算制への移行を目指す。	
教育に関する目標	生徒募集・進路指導に関する目標	学校経営に関する目標	
<p>中学</p> <p>学力の伸長と人間的な成長が目に見える取り組みを実践する。対話的コミュニケーションの実践を通じて、協同的な学びの場を組織する。幹練期の中高連携を強化して、6ヵ年一貫教育のさらなる充実を図る。</p> <p>高校</p> <p>バタビアコース (マスタークラス)</p> <p>質量ともにハイレベルな授業を展開する中で、自主的に学ぶ姿勢と国公立大学進学に備える学力を身につけさせる。</p> <p>(コアクラス)</p> <p>一人ひとりの学力、多様な進路希望に応じた授業・指導を行い、課外活動との両立も奨励しつつ、難関私立大学から国公立大学まで、それぞれ対応できる学力を養成する。</p> <p>インテグラルコース</p> <p>課外活動と両立させながら、基礎学力の向上と学習習慣の確立を重視し、指定校・協定校推薦制度を有効に活用した進路実現を目指す。</p> <p>全寮制奨学生制度の復活</p> <p>学園存立の精神に叶う人間教育の場として、知進寮改修を機に、全寮制特別奨学生制度を復活させる。</p>	<p>生徒募集</p> <p>卒業後の進路実績の拡大・向上により、専願受験者の増加を図る。また校内各部門のボトムアップによる組織力の拡充により、機動的かつ緻密な募集活動を展開する。</p> <p>連携強化</p> <p>同一法人の大谷大学との連携を一層強固なものとし、指定推薦枠50名の充足をを目指す。そのために、高大の教職員からなる連携組織を設置し、大学の先取り授業や特定の資格取得コース進学のための事前指導を行う。</p> <p>進学強化</p> <p>バタビア(マスタークラス)は、現役国公立合格者率70%とし、京阪神合格者率20%とする。 バタビア(コアクラス)は、現役難関私大(国公立大学を含む)合格者率50%中堅私大75%とする。 インテグラルコースは、指定校・協定校推薦での大学進学率70%、自力受験(公募制推薦・AO入試・一般入試)での現役中堅私大レベルへの合格率20%とする。</p>	<p>中学</p> <p>生徒募集定員100%確保の達成と6ヵ年一貫教育。</p> <p>高校バタビアコース</p> <p>生徒募集定員100%確保の達成と左記進学強化策の遂行。</p> <p>高校インテグラルコース</p> <p>生徒募集定員100%確保の達成と指定クラブ生による学園の活性化、ならびに左記進学強化策の遂行。</p> <p>進路指導部</p> <p>指導力の養成と組織作り 「進路研究会」や「入試の傾向分析・勉強会」を教員研修として実施し、担任教師の進路指導力を高める。 高大連携の強化による進路意識の向上と、高大接続の円滑化 指定校・協定校卒での進学者の基礎学力を担保する取り組みを、連携校と協力して作り上げる。今後5年を目前に総括を行い、次の5年をより良いものへ深化させる。</p> <p>入試広報部</p> <p>各コースレベルに合致する生徒募集定員100%確保とそのための広報戦略の立案・実施。</p>	<p>生徒指導支援部</p> <p>生徒指導</p> <p>学校内外の生活における「規範意識」と「公共マナー意識」の高揚、ならびに、自己とともに生きる「他者」の存在を認める人権意識を育成する。 特別教育活動 生徒一人ひとりの自主性を高めるとともに連帯意識や他者貢献の精神を涵養し、社会でリーダーシップを発揮できる人間性を育成する。上記の目標を達成するために、校内各部署や外部機関と連携をとり、生徒への啓発活動やボランティア活動に力を入れる。</p> <p>教務部</p> <p>各コースカリキュラムの継続的点検と改善。成績処理、出欠管理、生徒情報等のシステム化。</p> <p>宗教人権教育部</p> <p>宗教教育に関する目標 いつでもどこでも誰にでも通じる真実の教えに出会うことで真の立脚地を手に入れる。 人権学習に関する目標 自己を徹しく見つめる眼を養うとともに、他者との違いを認め、共に歩む精神を身につける。 出版(広報)に関する目標 教育現場の情報を広く公開し、教育活動の幅を広げ充実を図る。</p>